

## 第20回アジア競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の取組について

### I アジア競技大会の開催準備

#### <第20回アジア競技大会の概要>

- ・主 催：アジア・オリンピック評議会（OCA）
- ・大会期間：2026年9月19日（土）～10月4日（日）16日間
- ・実施競技：パリオリンピック（2024年）で実施される32競技に加え、アジア特有の競技等40競技程度（想定）
- ・参加国・地域：OCA加盟の45の国と地域
- ・選手（選手・チーム役員）：最大15,000人
- ・選手村：名古屋競馬場跡地 ※その他、ホテル等を活用
- ・関係者（想定）：OCAファミリー1,000人、審判等技術役員2,500人、メディア10,000人、ボランティア13,000人、その他運営要員、スポンサー等
- ・観戦者数：未定（参考 仁川大会約152万人、ジャカルタ大会約210万人）



#### 1 組織委員会の取組

##### (1) 競技及び競技会場の検討（別添1「競技会場の検討状況一覧表」参照）

###### [2021年度]

- ・仮決定した競技会場については、関係者動線を想定し、運営諸室等の配置計画（会場ブロックプラン）を順次作成
- ・未決定の競技会場については、競技団体や施設所有者等との調整を継続実施
- ・練習会場については、会場確保に向けて、競技団体や施設所有者等との調整を実施

実施競技	備考
パリオリンピック実施32競技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場仮決定済 水泳、陸上等43競技会場</li> <li>・会場未決定 バスケットボール3×3、ブレイキン等6競技会場</li> </ul>
アジア5地域（中央、東、南、東南及び西アジア）での普及を考慮して決定される5競技（各1競技）	OCAから実施競技の検討状況について情報収集
OCAが提案する最大2競技	
組織委員会が提案する最大2競技	JOC等と実施競技の選考方法等を検討

###### [2022年度]

- ・2021年度の取組を引き続き実施するとともに、競技会場の共通仮設物の標準仕様の作成等、仮設整備の基本設計に向けた調査・検討

## (2) 選手村の整備

### [2021年度]

- ・ 宿泊施設やダイニング等、各施設の機能や規模、配置等を示す選手村施設計画を作成

### [2022年度]

- ・ 2021年度に作成した施設計画を基に、ダイニングやランドリー等各施設で提供されるサービスや機能に応じた運営方法・動線等を検討した上で、基本設計を実施

## (3) 輸送・宿泊等の運営計画の検討

### [2021年度]

- ・ 安全で円滑なサービスを提供する輸送計画を作成するため、輸送手段やルート等を検討（2019年度から2021年度）
- ・ 大会関係者や選手村から離れた競技会場で競技を行う選手やチームの役員が利用するための宿泊施設調査を実施
- ・ 安全・安心な大会の開催に向け、警備の実施範囲や組織構成、警備対策等を記載した警備ガイドラインの素案を作成

### [2022年度]

- ・ 2021年度までの検討結果を踏まえ、輸送計画 Ver. 1（案）を作成
- ・ 宿泊施設調査の結果を基に、仮配宿計画を作成
- ・ 競技会場や選手村等における警備計画（2022年度：10会場程度を想定）を順次作成

## (4) 広報・PR及び他団体との連携

### [2021年度]

- ・ 大会紹介冊子やSNS・ウェブサイト等による広報・PRを実施
- ・ 愛知・名古屋大会と杭州大会（2022年9月）の成功に向け、杭州大会組織委員会と連携し、両大会の効果的なPRを推進するため、相互協力に関する覚書を締結
- ・ 大会の盛上げや学生の大会運営等への参加を促進するため、全国規模での大学との連携協定締結を目指し、まずは愛知県内の大学と調整を実施

### [2022年度]

- ・ 杭州大会において海外メディア関係者や各国NOC等に向けた大会PRを実施
- ・ 愛知県内の大学に続き、全国の大学と連携協定締結に向けた調整を実施
- ・ 大会マスコット作成に向けて、募集や選定の方法等の方針を検討

## (5) マーケティング活動の実施

### [2021年度]

- ・ スポンサー獲得等を担うマーケティング専任代理店の候補事業者と契約に向けた調整を実施

### [2022年度]

- ・ 大会のセールスシートを作成し、企業へのアプローチを開始するなど、スポンサー獲得に向けた活動を実施

## 2 開催都市の取組

### (1) 開催機運の醸成

#### [2021年度]

- ・東京2020大会によるスポーツへの関心が高まる機会を捉え、大会エンブレムの4色で中部電力MIRAI TOWERを照らすPRライトアップを実施  
(実施期間：9月11日～19日)
- ・2020年度に引き続き、各種スポーツイベントやショッピングモール等のイベントスペースにおいてブース出展を実施したほか、小中学生に対する啓発パンフレットの配布も実施

#### [2022年度]

- ・杭州大会を盛り上げるとともに、愛知・名古屋大会への関心を高めるためのオフィシャルファンランを愛知県内で実施
- ・杭州大会閉会式で実施予定のフラッグハンドオーバーセレモニーで大会旗を引き継ぐとともに、愛知・名古屋の歴史や伝統文化、産業といった多彩な魅力のPRを実施。引き継いだ大会旗を愛知県内で披露するイベントも実施
- ・2021年度に引き続き、PRイベントやブース出展、小中学生に対する啓発パンフレットの配布等を実施
- ・杭州大会の開催に合わせ、県民の機運醸成に向けた愛知・名古屋大会の集中的なPRを愛知県内で実施

### (2) メイン選手村の後利用事業の推進

#### [2021年度]

- ・6月に、中部電力株式会社を代表法人とするグループを後利用事業の契約候補事業者に決定

#### <事業者提案内容>

- “ウェルネス・アソシエーション”を事業コンセプトとして、多様な人々がつながり、共につくる次世代型のまちづくりを目指す
- ・選手村として一時使用する施設や整備工程等について、県・市、事業者、組織委員会で協議・調整。事業者が「後利用事業基本計画」を作成
- ・名古屋競馬場の弥富市への移転(2022年4月)後、速やかに工事着手できるよう、都市基盤施設の詳細設計を実施

#### [2022年度]

- ・「後利用事業基本計画」を県・市、事業者、組織委員会で合意し、「基本計画協定」を締結。その後、県・市と事業者で「土地売買契約」を締結
- ・名古屋競馬場移転後、新場外馬券売場(2024年3月開業予定)用地等の整地・造成や雨水貯留施設等の都市基盤施設の工事に着手(別添2「選手村後利用基盤整備事業」参照)

### 3 アジア競技大会を契機とした取組

#### (1) レガシー

##### <愛知県>

###### [2021年度]

- ・アジア地域と県内市町村、学校、企業、地域団体等との交流事業を10団体で実施
- ・新城市と2020年度から実施している「思いやり 1.5m 運動」(※)をアジア各国へ展開  
※自転車の側方を自動車で通過するときに 1.5m 以上の間隔を保つこと等を呼び掛ける運動
- ・スポーツボランティアに関するポータルサイト「スポボラ.net」を利用したボランティアの募集・育成を、HC名古屋の試合、西尾マラソンを対象にモデル的に実施・検証

###### [2022年度]

- ・杭州大会のパブリックビューイングやアジアの外国人県民との交流イベント等の取組を25団体で実施
- ・「スポボラ.net」を運営する特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワークと連携し、県内で行われる様々なスポーツ大会におけるボランティアの募集や研修等を実施・検証

##### <名古屋市>

###### [2021・2022年度]

- ・2019年10月に策定した「2026アジア競技大会NAGOYAビジョン」に掲載した取組を各局において推進
- ・主な取組として、海外からの観光客誘致の推進をはじめとしたインバウンドの促進、外国諸都市との交流推進、国際展示場の運営・整備、名古屋駅ターミナル機能の強化、イノベーション戦略の強化・推進を実施

## (2) アスリートの発掘・育成・強化

### ア あいちトップアスリートアカデミー

#### [2021年度]

- ・県内4会場で選考会を実施し、540名の応募者から、キッズ41名、ジュニア46名、ユース1名を選考
- ・7月に開講式を開催し、2022年3月までアカデミー活動を実施予定
- ・パラアスリートを目指すスポーツ能力の高い子ども等46名の応募者から6名を選考し、パラ競技団体と連携したトップアスリートへの育成を開始

#### [2022年度]

- ・キッズ40名、ジュニア60名、ユース30名、パラアスリート10名程度を募集予定

### イ 2026年アジア競技大会等選手強化

#### [2021・2022年度]

- ・アジア競技大会等で活躍する本県ゆかりの選手（パラ選手を含む）を育成するため、強化指定選手を選考し、競技用具費や遠征費等の強化費を補助  
(2021年度：184名 2022年度：180名程度)

## (3) 瑞穂公園の整備

#### [2021年度]

- ・PFI方式により陸上競技場の改築を含む瑞穂公園の整備と公園全体の維持管理運営を一体として実施する民間事業者と7月に名古屋市会の議決を経て事業契約を締結
- ・設計や各種行政手続きに着手するとともに、工事説明会や準備期間を経て11月に取壊し工事に着手

#### [2022年度]

- ・2021年度に引き続き設計を実施するとともに、取壊し工事を実施

## (4) 愛知県新体育館の整備

#### [2021年度]

- ・「株式会社愛知国際アリーナ」とPFI法に基づく特定事業契約を締結
- ・2022年7月の本体工事の着手に向け、同社が設計を進めるほか、県が、名城公園北園にある既存施設の撤去工事及び新体育館建物本体の敷地における埋蔵文化財発掘調査を実施

#### [2022年度]

- ・2021年度に引き続き、事業者による設計、県による既存施設の撤去工事及び埋蔵文化財発掘調査を進め、終了後、新体育館の本体工事に着手

## (5) 市町村施設改修への補助

[2022年度]

- ・市町村が所有する施設でアジア競技大会開催に必要な照明のLED化、バリアフリー化等の改修をする場合に、愛知県が補助金を交付

## II アジアパラ競技大会の開催に向けた検討

<アジアパラ競技大会の概要（APC基準）>

- |                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・主催：アジアパラリンピック委員会（APC）</li><li>・大会期間：7日以内</li><li>・実施競技：11競技以上</li><li>・参加国・地域：APC加盟の44の国と地域</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

[2021年度]

- ・選手村に求められる機能やバリアフリー対応等についての調査・検討を実施
- ・開催都市契約の内容の精査及びメールやウェブ会議によるAPCとの協議を実施

[2022年度]

- ・開催都市契約や実施競技等について、APCや競技団体とより詳細な調整や協議を実施